## 現代語の形容詞語幹型感動文の構造

――「句的体言」の構造と「小節」の構造との対立を中心として――

## 清 水 泰 行

関西学院大学大学院研究科研究員

【要旨】この論文は、「熱っ!」のように、形容詞語幹が声門閉鎖を伴って発話され、感動の意味が表現上実現する文 (形容詞語幹型感動文と呼ぶ)を扱い、「感動の対象」を表す「主語」をとるかとらないかに着目して考察する。その結果として、形容詞語幹型感動文について、①即応性と対他性による分析から、構造上の「主語」をとらないと考えられること、②「これうまっ!」における「これ」のような形式は、話し手が聞き手に注意喚起を呼び掛けるための「感動の対象」の提示部であること、③形容詞語幹型感動文を構成する形容詞の性質の違い(属性形容詞か感情形容詞か)の観点から、属性形容詞によるものと感情形容詞によるものの二種に大別できること、④属性形容詞によるものも感情形容詞によるものも体言化形式を持ち、名詞句として感動の表出に用いられることで同じ感動文として機能すること、という四点を述べる\*。

キーワード:形容詞語幹,感動,注意喚起,属性形容詞,感情形容詞

#### 1. はじめに

この論文では、(1) のような話し手の感動を表出する形式について、形容詞語幹が声門閉鎖を伴って発話され、感動の意味が表現上実現する文(形容詞語幹型感動文と呼ぶ)と規定し、考察対象とする(以下、例文に付された下線は筆者によるものである)。

(1) (パソコンを横から見て) 「<u>薄っ!</u>」(片手で持ち上げ) 「<u>軽っ!</u>」(カフェで店員に「閉店です」と言われ、バッテリーの持ちについて) 「<u>長っ!</u>」 (富士通「FMV」の CM、柴咲コウ)

現代語の感動文については、いわゆる山田文法における「中心たる體言と連體格」を「構成上の必要條件」とする「感動喚体句」の規定(山田 1936)を踏まえて、形式・構造に支えられた感動表出の文と捉える<sup>1</sup>。形容詞語幹型感動文については、

<sup>\*</sup>この論文は、筆者の博士論文(清水 2014)の一部に加筆・修正を施したものである。この論文をまとめるにあたり、まず、博士論文をご指導くださった、大鹿薫久先生に心より感謝申し上げたい。また、お二方の査読者の先生からは貴重なコメントとご助言、参照すべき論文についてのご指摘を頂き、記述を一部追加するなどし、議論を深めることができた。編集委員会の方々からは、より読みやすくするためのコメントを頂き、書式を改めることができた。記してお礼申し上げる。最後に、私事ながら、いつも前向きで見守ってくれる母に感謝の意を表したい。

<sup>1</sup> 山田(1936)以後, 現代語の感動文においては、体言(名詞)形式を拠り所とした考察が多くなされている(安達(2002)、大鹿(1988, 1989)、尾上(1986, 1998)、笹井(2005, 2006)など)。

「感動喚体句」の形式に基づく感動文の1タイプとして位置付けている, 笹井 (2005, 2006) の分類 (2.1節で言及する) を受けて議論を進める。

形容詞語幹型感動文を扱った先行研究において、その構造の観点からは、「句的体言」の構造による分析(笹井 2005、2006)と「小節」の構造による分析(今野 2012)という異なる二つの分析が注目される <sup>2</sup>。前者では、形容詞語幹そのものが体言資格を持つこと、属性を表す働きを持つ形容詞が体言性のある語幹の形式で運用されることから、「感動喚体句」(山田 1936)と同等の形式を持つものとして捉えられている。後者では、「対象名詞が現れることができる」とする富樫(2006)の指摘および「おじいちゃん若っ。」「これうまっ。」の例をもとに主語 – 述語構造のみを持つとされ、埋め込み文にできないことから「小節」が主節として用いられる「root small clause」(Progovac 2006)の一種と見做されている。両者において注意したいのは、「主語」の分析についてである。それは、前者では「感動の対象」としての「主語」が形式上示されないとされているのに対し、後者では「主語」を必ず認める統語構造が仮定されているからである。

以下では、形容詞語幹型感動文について、先行研究で指摘されている事実関係を明らかにし、収集した用例をもとに新しい事実も加えて考察する。次節で、先行研究を概観してその問題を示し、第3節で、「これうまっ。」における「これ」のような、今野(2012)が「主語」と分析している共起要素(以下、主語的共起要素と呼ぶ)を伴うものと伴わないものとの間に見られる性質の違いを指摘し、第4節で、主語的共起要素の扱いについて述べる。第5節では形容詞の性質の違い(属性形容詞か感情形容詞か)の観点から形容詞語幹型感動文の分類を行い、形式と統語構造の関係を示す。さらに、感情形容詞によるものが使われにくいという事実について考察する。

## 2. 形容詞語幹型感動文と「主語」の分析

この節では、笹井 (2005, 2006) と今野 (2012) における形容詞語幹型感動文の「主語」の分析について確認し、「主語」の分析上の問題点を指摘する<sup>3</sup>。

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> 今野(2012)は、形容詞語幹型感動文を「イ落ち構文」と呼び、形容詞語幹が末尾に声門閉鎖「っ」を伴って発話され、形容詞終止形活用語尾「い」が脱落したものと捉えている。これに対し立石(2012)は、音韻論の観点から、語末の促音を「事象の臨場性の体験」を表現する形態素と見做し、「い落ち」の実際は促音の付加であり、形容詞に限定されない、より一般的な言語現象と捉えている。この論文は、語末の促音の機能・役割の問題には立ち入らない。なお、形容詞語幹型感動文の「声門閉鎖を伴って発話される」という規定は今野(2012)を受けたものだが、この論文では形容詞の語幹用法を議論することが目的であるため、実際の発音上声門閉鎖を伴うか伴わないかという問題は扱わない。

<sup>&</sup>lt;sup>3</sup> 笹井 (2005, 2006) における (「感動の対象」としての)「主語」と,今野 (2012) における (「小節」の)「主語」とは、異なる概念であることを注意しておく (前者は「句的体言」における「述語」に対する体言、後者は A (形容詞)を「主要部」とする AP (形容詞句)の「指定部」の位置を占める名詞句)。ただし、「これうまっ。」のような現象における「主語」を問題とする場合には、両者で言う「主語」の範囲が重なるため、構造上の「主語」として同列に扱う。

#### 2.1. 「句的体言」の構造による分析

「熱!」のような形容詞語幹型感動文について、笹井(2005, 2006)は、感動文の一つのタイプに位置付けている。笹井(2005, 2006)は、感動文を「あ、山中の青葉のうつくしさよ。」のような山田(1936)における「感動喚体句」と同じ構造、具体的には、川端(1965)の理解に従い「句的な体言(句的体言)」の構造(「山中の青葉がうつくしいコト」)を持つものとして把握している。(2)は、笹井(2005, 2006)において示された感動文のバリエーションである。「感動の対象」としての「主語」については、(2a,b,c)は示すのに対し、(2d,e)は示さないと観察されている(ただし、(2b)は「感動の対象」が眼前にある場合には示さないこともあるとされる)。

- (2) a. 逆述語タイプ:美しい花!
  - b. 「(~の) こと | タイプ: (この花の) 美しいこと!
  - c. 「~の-さ|タイプ:この花の美しさ!彼の演奏のこの優雅さ!
  - d. 形容詞語幹・形容動詞語幹タイプ:熱(あつ)!きれい!
  - e. 形容動詞連体形タイプ:ばかな!

今問題としている形容詞語幹型感動文が含まれる(2d)に関しては、「感動の対象は形式に示されず」(笹井 2005: 14)と述べられている 4。笹井 (2005, 2006)に従うと、「これうまっ。」における「これ」のような主語的共起要素は構造上の「主語」ではなく、形容詞語幹型感動文の構成要素ではないものとして扱わなければならないということになる。

#### 2.2. 「小節」の構造による分析

今野(2012)は、(3a)のような「形容詞を述語とする単文一般の統語構造」を仮定し、「おじいちゃん若っ。」「これうまっ。」のような例によって、形容詞語幹型感動文は主語 – 述語構造のみを備えた「SC (小節)」の構造を持つとしている。具体的には、Stowell (1983)の提案に従って、述語の語彙範疇(実際には形容詞語幹)が「小節」の投射を決定すると仮定し、(3b)の統語構造を提案している(今野 2012: 15)。「主語名詞句」は省略可能とされている。

- (3) a. [CP...[TP...[NegP...[SC...]]]]
  - b. 「AP [\*埋め込み] (主語名詞句) 形容詞語幹 [+声門閉鎖]]

今野(2012)は(3b)の有する統語特性,すなわち Neg, T, C を持たないという三点に関連付けて、非文となる事実を観察している。

<sup>\*</sup>形容詞語幹を形容動詞語幹と同様に体言として扱うことについては永野 (1951) などで、形容詞語幹の独立性および名詞として用いられることについては飯豊 (1973: 165-171) などで述べられている。

- (4) a. Neg (否定辞) の欠如:否定化を許さない
  - b. T (時制辞)の欠如:①終助詞の付加を許さない,②「主語」を導入できても、その「主語」に主格(ガ格)を付与できない
  - c. C (補文化辞) の欠如:主題化. 疑問化を許さない

(4a) に関しては、「\*寒くなっ。」のような例の非文法性から、Neg を欠くとしている。(4b①) に関しては、「\*うま(っ){なあ/よ}。」の非文法性から終止形活用語尾を欠くとし、形容詞終止形活用語尾が持つ統語的時制辞という役割(Nishiyama 1999)を踏まえてTを欠くと分析している。(4b②)に関しては、主格(が格)付与にはTが必要であるという分析(竹沢 1998 など)を援用して、形容詞語幹型感動文の「主語」に主格を付与できないことを予測し、「\*おじいちゃんが若っ。」のような事実から、Tが存在しないとしている。(4c) に関しては一般にCと関連すると考えられている現象(主題化、疑問化)を取り上げ、「\*おじいちゃんは若っ。」のような主題化の事実、「\*この部屋臭っ?」のような疑問化の事実からCを欠くと説明している。

## 2.3. 「主語」の分析上の問題点

今野(2012)に従うと,主語的共起要素は構造上の「主語」ということになるが,(3b)の統語構造による分析には,原理上および応用上の問題が考えられ,形容詞語幹型感動文の事実関係を十分に説明しているとは言い難いように思われる5。

原理上の問題に関しては、第一に、「これうまっ。」における「これ」のようなものが構造上の「主語」であることを示す直接的な議論を行っていないことがある。今野 (2012) は形容詞語幹型感動文について、「主語」を持つことを前提としたまま、「小節が主節を成す統語的に「不完全な」構文」としているが、「主語」だけは持つという理由・根拠を示すとともに、「主語」と分析される名詞句が「主語性」を持つことを検討する必要があると考えられる。

第二に、形容詞語幹を語彙範疇の形容詞として認定し、AP(形容詞句)の構造をとる(=形容詞語幹がAPの「主要部」である)としていることがある。活用語尾が欠落した形容詞語幹は、形態上述語性を持つと言えず、実際(4)の事実が示しているように統語的な機能・役割を持たないと思われる。形容詞語幹は、活用語尾をとってはじめて「主要部」としてAPを形成する語彙範疇の形容詞となるのである。すなわち、形容詞語幹は語彙範疇の形容詞としての機能を持たないと考えられる。従って、形容詞語幹を語彙範疇の形容詞として認定し、(3b)のような統語構造を仮定することは形容詞語幹の実態に即していないように思われる。もし形容

 $<sup>^5</sup>$  今野(2012)の分析の背景には、理論的背景の問題もある。小節の構造については、意見の一致があるわけではなく(大庭(1998)の第 6 章、大庭(2011)の第 4 章で先行研究が整理されている)、今野(2012)が従っている Stowell(1983)についても、経験的問題が指摘されている(大庭 1998: 253–256)。今野(2012)の分析において、依拠する理論に問題はないのか、生じ得る問題に適切に対処できるのかなどの点については、今後詳細に検討したい。

詞語幹を語彙範疇の形容詞と捉えるのであれば、形容詞語幹が統語的な機能・役割 を持ち得ることを議論する必要があるだろう。

応用上の問題に関しては、第一に、形式的に「主語」を想定できない形容詞語幹型感動文の存在をどのように説明するかということがある。今野(2012)は(3b)の統語構造を仮定した上で、実際の文では「主語名詞句」が省略された形で多く現れると説明している。次の(5)の用例では、今野(2012)に従うと、何らかの「主語名詞句」が省略されていることになる。

(5) 先日, 駅で上りエスカレーターに乗っていたら, 突然ガンッと頭に衝撃が走った。何が起こったか理解できず, 無意識のうちに「<u>痛っ</u>」と声を発していた。 (『朝日』 2010 年 6 月 24 日朝刊, オピニオン 2)

しかし、(5) の用例において、「痛っ」に「主語名詞句」を想定することはできない。聞き手が「主語名詞句」として、例えば、頭、首を想定できたとしても、「頭に衝撃」のみがあり、痛みの対象がない状況の発話で、話し手が「主語名詞句」を省略したとは考えられないからである 6。

第二に、「主語名詞句」の省略に関して、例えば、形容詞語幹型感動文を連続して発話する用例から見て問題がある。(6) は、主語的共起要素を伴わないものと伴うものという順番をとる用例である。今野(2012)に従うと、(6) の用例では最初の「うまっ」が「主語名詞句」を持つので、「これ、うまっ!これ、うまっ!」のような連続における一番目の「これ」が省略されていることになる。

(6) a. (ハンバーガーを食べて)「<u>うまっ…</u>」「<u>コレうまっ…</u>」 『ハカセ』 b. 岩倉にあるブルージュのフレンチトースト!! Y様が以前から語られていた一品です。お洒落なおてんちょにはお洒落なパンがよく似合う… しかしグルメなおてんちょの口に合うでしょうか…<u>うまっ!!</u> (http://ameblo.jp/eirin-daigo/entry-11537821685.html)

一方,もう一つの可能性として二番目の「これ」を省略する場合も考えられる。この場合,表現上の価値は異なったとしても発話内容は同じであり、従って言いやすさも同じになることが予想される。しかし,実例では(6)のような用例に対して、「これ、うまっ!うまっ!」のような主語的共起要素を伴うものと伴わないものという順番の用例は一般的に見出されにくい。ただし、「これ、うまっ」の後に長めの間(ま)を置いて、もう一度うまさを再発見・再認識した後、改めて「うまっ」と表出するようなことは可能である7。例えば(7)では、「これうまっ」の後にうま

<sup>6</sup>三上(1953:144)において「語幹用法の『ア痛!ア熱!オウ寒!』の如きは「何処ガ」とも「何ガ」とも言添える余裕のないものである」とされているように、形容詞語幹が単独で発話されていると考えるのが妥当であろう。

<sup>7「</sup>長めの間」については、主語的共起要素を伴わないものと伴うものという順番においては 不問であるが(「うまっ!(長めの間/瞬時に)これ、うまっ!」)、主語的共起要素を伴うも

さを改めて実感するというような間が想定されることから、主語的共起要素を伴うものと伴わないものという順番で現われ得ると考えられる。なお、「goo ブログ検索」による調査(2013 年 8 月 10 日)においては、「うまっ!これ、うまっ!」の順番の用例は 20 例((6b)を含む)確認できたのに対し、「これ、うまっ!うまっ!」の順番の用例は(7)の 1 例以外は確認できなかった。

(7) 私はお酒は飲まないのですが、主人が「<u>これうまっ うまっ!</u>」と言って休日あわせて2日で、2本(筆者注:サントリーの「-196°C ROCK STYLE 2 種2本セット」)とも空けてしまいましたーーお店で飲んでるような気分にひたれるようで、大満足してました♪

(http://ameblo.jp/honnori-a/entry-11519011261.html)

(7) は長めの間が想定される点で限られた場面の使用と言える。そして (6) のような主語的共起要素を伴わないものと伴うものという順番の発話が一般的であるという事実は、「主語名詞句」の省略では説明できないものである。以上のことから、構造上の「主語」を仮定する「小節」の構造による分析は、問題点を含むと考えられる。では、(6) と (7) との文法性の差はどのように捉えればよいのであろうか。以下、意味的特徴の考察においてこれを説明する。

### 3. 主語的共起要素を伴う場合と伴わない場合

この節では、即応性と対他性の観点から、主語的共起要素を伴う場合と伴わない 場合の性質の違いを述べる。

#### 3.1. 即応性

岩崎・大野(2007)は「話者がコミュニケーションの現場において瞬時に(つまり「即時的」に)発する文」を「即時文」と呼び、その中に「熱!」のような形容詞語幹型感動文を位置付けている。この論文では主語的共起要素を伴わない形容詞語幹型感動文は、発話が話し手の事態の把握に即応しているという性質、すなわち即応性を持つと捉える。「瞬時性」「即時性」ではなく即応性と把握するのは、時間的な問題ではなく、話し手の側から、事態の把握に即応して発話されるかどうかという点に注目するからである。これに対して、主語的共起要素を伴う形容詞語幹型感動文は、即応性を持たないと考えられる8。両者の違いを、同じビールのCMの(8a, b)によって例示する。

のと伴わないものという順番においては必ず置かなければならず(「これ, うまっ! (長めの間) うまっ!」), 瞬時に発話すれば不自然になると考えられる。

<sup>8</sup> この論文で収集している用例によれば、実際の場面において即応性があると分析できるもので、主語的共起要素を伴うものはなかった。なお、一口食べた瞬間に「これ、うまっ!」と発話することも可能だという指摘もあるが、このような発話は、対他性(3.2 節で述べる)の観点から、聞き手により早く伝達を行おうとするような場合に自然になると考えられる。

- (8) a. (ビールを一口飲み一息吐いた直後)「うんまっ! |
  - b. (ビールを三口飲んだ後, 目をつむって上を向いて)「あーっ」(右手の グラスを見ながら)「これ. うまっ!」

(サントリー「ザ・プレミアムモルツ」の CM. 木村拓哉)

(8a) はビールを飲んで間を置かない発話であるが、(8b) は一定の間を置いての発話である。(8b) では、感動詞「あーっ」が使われていることも注目される。話し手は「ビールのうまさ」を実感した後に、感動詞「あーっ」を発していると考えられる。「ああ」という感動詞については、「心の中から比較的ゆっくりと沸き上がってくる感情」、「新たな事態との遭遇における急激な反射的反応とは違って、(たとえ何らかの事態との遭遇をそれ以前に経験していたにせよ)内的な情意の動きとして、一定の時間をもって発せられるもの」とされている(森山 1996: 54)。このような感動詞の使用は、両者の性質の違いを裏付けている。なお、(6) と (7) の文法性の差は、即応性の観点から説明することができる。即応性の有無によって、主語的共起要素を伴わないものと伴うものとの間には発話における相対的な時間差が生まれる。この相対的な時間差によって、より時間をかけて発話され得る主語的共起要素を伴うものが二番目に来る(6)のような例は自然になり、そうでない例は、(7) のような限られた場面の使用を除いて不自然になると考えられる。

## 3.2. 対他性

主語的共起要素を伴わない形容詞語幹型感動文は、「文に示されている情報についての伝達を目的とはしない、話し手の感動を表出する文」の一つと捉えられているように(笹井 2006: 16–17)、聞き手の存在は不問である 10。実際に、(9) のように聞き手が存在しないと考えられる場合にも、(10) のように聞き手が存在する場合にも使われる。

- (9) a. (冷蔵庫を開けた直後)「臭っ!」 (エステー「脱臭炭」の CM)
  - b. (パソコンを使って) 「速っ!」(イー・モバイル [LTE] の CM, 板野友美)
  - c. (駐屯地パンノニアの古い浴場につかって)<u>寒っ!!</u> 『テルマエ』
- (10) a. (カフェのマスターが髪をほどき、胸まできた髪を両手で掻き上げるのを見て)「長っ!」 (ブリヂストン「BLIZZAK」の CM、石原さとみ)
  - b. [漁師の家に松本潤が招待され, 岩もずくを振る舞われる] 漁師「噛ん

<sup>&</sup>lt;sup>9</sup> 感動詞「ああ」の使用に関しては、例えばビールのうまさを予期して飲む場合、瞬間的にそのうまさを把握できたのであれば、「ああ、ビールうまっ!」というように即時に「ああ」と発話できることから、単に時間だけの問題ではなく、事態の把握ができているかどうかの問題であると考えられる。

<sup>10</sup> 笹井(2005, 2006)の分類する感動文は「感動喚体句」の形式を持つものであるが(2.1 節)、 山田文法における「喚体句」は「直観的のものにして、他がこれを受くるにも亦直観を以て 感受すべきものにして、決して理解せしむるを目的としたる発表にあらずして直観せしめむ とするを目的としたるなり」(山田 1936: 944)という性質のものである。

で欲しいんや,この音」松本(シャキシャキと噛んで)「<u>うまっ!!</u>」 (日本テレビ『24 時間テレビ』「ダーツの旅」2012 年 8 月 25 日放送)

c. 田村さんは、黒い液体の入った 500 ミリリットルのペットボトルを配った。「うわ、くさっ」。 ふたを開けた子どもたちが鼻をつまんだ。 中身は 液肥。 (『朝日』 2008 年 6 月 15 日朝刊、教育 1)

これに対して、主語的共起要素を伴う形容詞語幹型感動文は、発話に聞き手が存在するという性質、すなわち対他性を持つと考えられる<sup>11</sup>。主語的共起要素を伴うものには、聞き手が存在するという共通性が見られる。

- (11) a. (細身のスーツを着た男性に対して)「あっ, <u>スーツ細っ!</u>いいじゃん, ありだよ、あり (AOKI「もてスリム | の CM、上戸彩)
  - b. [テリーとフレッドは、依頼人クレアの元夫に対する慰謝料請求のための計算をしている] テリー「この3ページある文書もクレアの監修。メモとか訂正箇所がいっぱいある。1ページに2時間かかったとして、時給400ドルだと…」フレッド(即座に)「2400ドル」テリー「<u>計算、は</u>やっ!

(『私はラブ・リーガル』「危険なバッド・ガール」日本語吹き替えテレビ版)

c. 「<u>スカート長っ!</u>暑苦しい!」。尾形さんは昨年5月ごろ,下校中の電車の中で,短いスカートの見知らぬ女子高生に言われた。

(『朝日』2004年1月7日朝刊. 山形2)

- d. [昼食の時間に、ヨリコだけ別のテーブルで自分が中心となって作ったカレーを食べている。グループの他のメンバー(ケント,アイカ,ミナミ,アツシ) は怒った様子でカレーを食べている]ケント(大声で)「あ~!ニンジン生煮えじゃん!」(ヨリコは聞き耳を立てている)アイカの声「だから入れない方がいいってアイカは言ったの」ケントの声「これ、まっず!」 (NHK『時々迷々』「友達ランキング」2013 年 5 月 24 日放送)
- (11a) では「細身のスーツを着た男性」、(11b) では「テリー」、(11c) では「尾形さん」、(11d) では「アイカ、ミナミ、アツシ、ヨリコ」が聞き手として存在している。(11d) においては、話し手である「ケント」が、カレー作りの責任者であることから別のテーブルに座っている「ヨリコ」にも、「まっず!」というように心が動く対象が「これ(カレー)」であることを伝えようとしていることが注目

<sup>11</sup> 対他性に関しても、即応性の場合と同様に、この論文で収集している用例に基づいて判断している。なお、(8b) などは聞き手が存在しない独話的状況だと考えても問題ないという指摘もあるが、独話的状況で主語的共起要素を伴うのは、例えば、異なる種類のお酒(A, B, C)を順番に飲んでいるというような状況で、限定を表すような場合であると考えられる。

される。(11) の例から,話し手は事態の把握についての情報を意図的に聞き手に与えようとして,主語的共起要素を伴う形容詞語幹型感動文を用いると考えられる $^{12}$ 。

なお、形容詞語幹型感動文そのものは純粋な表出と言え <sup>13</sup>、聞き手を前提としないことから、「主語的共起要素 + 形容詞語幹型感動文」全体ではなく、主語的共起要素の側で対他性を持つと考えられることを注意しておく。主語的共起要素には (11d) および次の (12) のように指示詞 (コ系、ソ系、ア系) を観察することができるが、このことを主語的共起要素が対他性を持つことの傍証として挙げる。

## (12) a. 「この落花生, でかっ!」

(読売テレビ『秘密のケンミン SHOW』「連続転勤ドラマ | 2014 年 3 月 27 日放送)

b. 私も第一印象はおとなしい子だなと思っていたら娘をよびに家にくる と,「マジやばい」「<u>それキモ <sup>14</sup>!</u>」「っていうかバカじゃない」と玄関 先で娘に強く言っていてビックリしました。

(http://okwave.jp/qa/q6171100.html)

c. トロカデロ広場☆★<u>あの車,小さっっ!!</u>

(http://4travel.jp/travelogue/10175363)

(11d) と (12) が示すように、主語的共起要素における指示詞は、いわゆる「直示用法」で用いられる。「直示用法」の指示詞は話し手と聞き手との関連性に基づいて使われる  $^{15}$ 。主語的共起要素に「直示用法」の指示詞が現れるという事実から、主語的共起要素の側で聞き手との関連性を持つ、すなわち対他性を持つと考えられる。田中 (1981: 5) は「一般に、ある種の言語形式の持つ、「発話の場にいなければ十分な理解ができない」という性質」を「ダイクシス (deixis)」と呼び、そのよ

<sup>12</sup> 森山 (1996: 52-53) では、感動詞について「その意味の中心が対他的な発話であるかどうか」という点で、「対他的でない」ものと「対他的」なものの二つに分類している。その判別基準は「一人で発話できるかどうか」という点とされている。一人で発話できるもの(「対他的でない」もの)は「情動的側面が意味の中心」になっており、原則として一人で発話して不自然になるもの(「対他的」なもの)は「他者に対する伝達機能をもつ」とされている。主語的共起要素を伴う形容詞語幹型感動文について、実際の場面で一人で発話されないという事実は、これが情報伝達の機能を持つことを示している。

<sup>13</sup> 日本語文法学会(編)(2014)『日本語文法事典』の「喚体と述体」の項目(執筆者:川端善明)においては、「いた(痛)ッ!」のような「特殊な情況性の一語文」についての言及があり、「喚体(感動)」の一般から区別されなければならないとされた上で、「これこそが僅かに感動の直接的表現と言われ得るかも知れぬ」と述べられていることが注目される。

<sup>14「</sup>きもい(キモい)」は「気持(が)悪い」の略語である。

<sup>15</sup> ここでは、「直示用法」の指示詞は原則として聞き手が必要な機構のもとで使用されると考える。このことは、主語的共起要素に指示詞が現れる実例において必ず聞き手が想定できるという事実からも裏付けられる。なお、独りで「あ!このビールうまっ!」のように発話できるということから、聞き手の存在が必須とは言えないという指摘もあるが(注9も参照)、(12b)のような主語的共起要素にソ系が現れる例を踏まえて、聞き手が機構上必要とされていると分析する。

うな性質を持つ言語形式を「ダイクシス語(deictic word)」と呼んでいる。(11d)の「これ」、(12a)の「この落花生」、(12b)の「それ」、(12c)の「あの車」は典型的な「ダイクシス語」である。これと平行的して、(11a)の「スーツ」、(11b)の「計算」、(11c)の「スカート」のように指示詞が現れない形式も、聞き手が発話の場にいることによって正確に理解ができるという点で「ダイクシス語」として働いていると考えられる。以上を踏まえて、主語的共起要素全般において対他性を持つと考える。話し手の側からは、聞き手に情報伝達を行うために、対他性を持つ要素として主語的共起要素を付け加えると捉えられる。

## 4. 形容詞語幹型感動文の主語的共起要素の扱い

前節の観察により、主語的共起要素を伴わない場合と伴う場合では性質の違いがあることが分かった。この性質の違いを主語的共起要素の省略の有無で説明することはできない。従って、主語的共起要素について、今野(2012)の分析のように構造上の「主語」とすることは妥当でないと考えられる。では、「これ、うまっ!」のような発話において、主語的共起要素(「これ」)はどのようなものとして扱うべきであろうか。この論文では、「感動の対象」の提示であると捉える。具体的には、話し手が何について感動しているのかを発話の冒頭で指定し、聞き手に注意喚起を呼び掛ける名詞句であると考える。よって、主語的共起要素を伴う場合は提示部を持つ形容詞語幹型感動文、主語的共起要素を伴わない場合は提示部を持たない形容詞語幹型感動文と捉え直す(以下、主語的共起要素を提示部と言い直す)16。

なお、提示部に関して、(13) におけるように発話の冒頭に現れる場合と、(14) におけるように発話の末尾に現れる場合は、「感動の対象」を提示するという意味では同じであるが、表現上の価値は異なることを述べておく。

(13) [金田一と佐木は、韓国人留学生のキムに名物のアヒルの水かきとカエルの 姿焼きを勧められる。ただしキムはこれらを食べられない] 佐木「そんなら キムさんも無理なものどうして注文したんすか」キム「日本の人って、こう いう所に来ると、とにかく、名物っていうのが、好きみたいだから。だめで

<sup>16</sup> 提示部は、構造的に形容詞語幹型感動文の「主語」ではないものの、「主語」と解釈してしまう可能性がある。次の「靴下、汗くっさっ!」からは「靴下が汗臭いこと」という解釈が得られる(「汗臭い」は「黴臭い」「きな臭い」などと同様に一語として扱う)。

<sup>(</sup>i) 息子「ただいまー」ママ「ちょーっと待ったっ!」(息子が玄関に上がる前に抱え上げて、靴下のにおいを嗅ぐ)「やっぱり、<u>靴下、汗くっさっ!</u>」  $(P\&G \lceil \nu / r \text{ plus} \rfloor \text{ } \sigma \text{ } CM)$ 

この場合、話し手が「主語 - 述語」を発話したわけではなく、聞き手の側で連続する要素を結び付けて、「主語 - 述語」のように変換して理解したに過ぎないと考えられる。また、この「靴下」は、「(においのもとを探ると) やっぱり、靴下 (だ)。汗くっさっ!」のように、「靴下だ」から「だ」を抜いた言い方、すなわち「不完全叙述」(芳賀 1978) の述語として用いられていると考えることもできる。

したか?」佐木「はい。気持ちはありがたくってことで」(金田一を見て)「えっ!」金田一(恐る恐る一口かじった後,両手でつまんだ水かきを見つめて)「水かき、うまっ!|佐木「食べるんかい| ((14)に続く)

(14) 金田一「キムさんもどうぞほらっ,ほらほらっ」キム「えっ,僕もですか?」 佐木「すいません,無視してください」キム(一口食べて)「<u>うんまっ,これ!</u>」 佐木「あんたもかい」金田一(キムに向かって)「でしょでしょー」キム(金田一に向かって)「ですよねー」

(日本テレビ『金田一少年の事件簿 香港九龍財宝殺人事件 | 2013年1月12日放送)

(13) の「水かき,うまっ!」における冒頭の「水かき」と比較すると,(14) の「うんまっ,これ!」における末尾の「これ」は、聞き手に積極的に注意喚起を呼び掛けるというより、話し手が何を対象として感動の表出をしたのかを、自分自身で再確認するというようなニュアンスを帯びると考えられる。

## 5. 形容詞語幹型感動文の分類と構造

この節では、前節までの考察を踏まえて、形容詞の性質の違い(属性形容詞か感情形容詞か)の観点から形容詞語幹型感動文を整理し、統語構造を提示する。形容詞語幹型感動文は、それを構成する形容詞の性質の違いによって、

- ①属性形容詞によるもの(以下、属性形容詞語幹型と呼ぶ)
- ②感情形容詞によるもの(以下、感情形容詞語幹型と呼ぶ)

の二種に大別される。先行研究で記述されてきたものは、形容詞の性質から見て、 属性形容詞語幹型に位置付けることができる <sup>17</sup>。一方、感情形容詞語幹型はこれま でほとんど取り上げられていないものである。

感情形容詞語幹型については「アァ、水が飲ミタ!」(三上 1959: 232)という例が指摘されている(ここでは「飲みたい」のような希望形「-たい」も感情形容詞として同列に扱う)。これに対し冨樫(2006: 脚注 8)は、「現在の内省では、(主格が標示されていることも含めて)おそらく許容されないだろう」と述べている。確かに感情形容詞語幹型は普通に現れるものではないが、現代語において出現が確認できるため、検討する必要がある。以下では、「欲しい」「恋しい」「-たい」による感情形容詞語幹型について、実例を挙げて見ていく  $^{18}$ 。

「欲しい」「恋しい」「-たい」による感情形容詞語幹型を観察してみると、感情形容詞のとる「対象(Theme)」の意味役割を持つ名詞句(以下,対象名詞句と呼ぶ)とともに出現するようである。この対象名詞句には、(15)のようにガ格を伴う場

<sup>17</sup> ここでは、「痛っ!」「寒っ!」などの感情形容詞の下位区分とされる「感覚形容詞」(西尾 1972) の場合も、属性形容詞として使われていると見做す。このことは、「いわゆる感情の形容詞のほとんどは、いわゆる感情の直接表出の文の中だけでなく、対象の一般的性質を述べるのにも使い得る」(寺村 1982: 151) とされることからも、妥当性があると考えられる。

<sup>18 「</sup>欲しい」「恋しい」「-たい」を分析対象としたのは、用例が多いことによる。これらは、「感情の直接的表出」(寺村 1982) に本来的に使われる感情形容詞である。

合と、(16) のようにガ格を伴わない場合がある。

(15) a. <u>出会いが欲しっ。</u>それもケ・ン・チ・ク・カと――。メディアへの露出 激増で、身近になった建築家。自宅の設計を任せたい方も少なくないこ とでしょう。なんせ一生の買い物、肝心なのは出会いです。

(『朝日』 2007 年 1 月 31 日朝刊, 生活 2)

b. エアコンに慣れきった人間がエアコン無しでは生きていけない! 「扇 風機で乗り切れるんじゃん!?」って大見栄切ってたのに…。これほど 無力だったとは…。あー. エアコンが欲しっ!!

(http://ameblo.jp/hm83232/entry-11569972579.html)

c. あ~ハワイ行きたいなぁ あの匂いとゆるさが恋しっ

(http://ameblo.jp/1209-0829/entry-11749083769.html)

- d. DSlite が欲しいです(今までのバイト代を使っちまいたいくらい羨望していまする。<u>銀魂のゲームがやりたっっ!!!!</u>とってもやりたいんです!!!!!) (http://blog.livedoor.jp/agletou/archives/2006-12.html)
- e. 酒, お酒が, 飲みたっ,,。

(http://ameblo.jp/gon---blo/entry-11398356867.html)

- (16) a. 「何事もなく無事結婚式を迎えられますように」「○○といつまでも,永くうまくいきますように」といった,恋愛や結婚を願う絵馬も多い。「素敵な彼女が欲しい」「<u>彼氏ほしっ!!</u>」などとは,いかにも現代の若者らしい。 (『毎日』 2000 年 1 月 27 日地方版,愛知)
  - b. で,何故か,ストームクルーザーの今年度モデルを試着なんてしたり って,軽っ!!!<u>これ欲しっ!!!</u>

(http://slow-trek.blogspot.jp/2011/07/minutes.html)

c. 初めて、イタリア人から日本のお土産(筆者注:温泉まんじゅう)をいただきました さっそく、緑茶を入れていただきましたよ~あぁ…<u>日本恋しっ!温泉恋しっ!</u>

(http://ameblo.jp/firenzefungo/entry-10824746455.html)

d. 朝 9:00 頃起きて来た娘が急に『<u>マック</u>(筆者注:マクドナルドのハンバーガー) 食いたっ』と言いだし…

(http://ameblo.jp/703-7-11/entry-11533856092.html)

e. しかし、蒸しますな。。。<u>ビール飲みたっっ</u>!! てなことでまたです。

(http://chum2011.com/2012/06/24/12475/)

(15) と (16) では, (16) のようなガ格を伴わないものが一般的に現れるようであるが, (15) のような例は, インターネット上で少なからず観察でき, (15a) のように新聞にも現れることなどから, (16) とともに許容されるものと考えられる。なお, 感情形容詞語幹型は, (17a) のように対象名詞句をとらない場合は成立せず,また, (17b) のように感情形容詞のとる「感情主 (Experiencer)」の意味役割を持

つ名詞句, すなわち「主語」(具体的には話し手の「私」)を省略しない場合も成立 しない。

- (17) a. \*欲しっ。\* 恋しっ。\* 飲みたっ。
  - b. \*私(は/が){彼氏(が)欲しっ。日本(が)恋しっ。酒(が)飲みたっ。}

よって、形容詞語幹型感動文は二種三類(属性形容詞語幹型、感情形容詞語幹型 が格標示有、感情形容詞語幹が格標示無)に分類できる。先行研究では体言形式という観点から感動文が分析されている。この論文のように、形容詞語幹型感動文に ついて、感動文の1タイプと見做すならば、その形式はどのように特徴付けられる のだろうか。

この論文では、感動文として機能する形容詞語幹について、単純な体言ではなく、体言性と形容詞が本来表す属性が一体化した、感動表出の場面でのみ現れる体言化形式(nominalization)と分析する。この論文の立場から山田(1936)を取り上げ、捉えてみると次のようになる。山田(1936)は、「感動喚体句」の構成上の必要条件を「中心たる體言と連體格」としているが、「連體格」に関しては、笹井(2005、2006)の分析をもとに、「属性概念を持つ語」と捉え直す。笹井(2005、2006)では、感動文が「属性概念を持つ語+体言」の構造を持ち、「属性概念を持つ語」が感動文の本質的な意味(「程度の甚だしさ」)を表現するとしている。このことから、「連體格」をとることの本質を「属性概念を持つ語」をとることであると押さえると、形容詞語幹型感動文においては「中心たる體言=連體格」の場合と言え、属性概念を持つ体言化形式によって構成上の必要条件が満たされていると捉えられる。ここまでの考察をまとめ、形容詞語幹型感動文の形式と統語構造の関係を示せば、(18)のようになる。

(18) a. 属性形容詞語幹型

[Nominalization 属性形容詞語幹]

(「NP 「感動の対象 19 | ]) 「NP 属性形容詞語幹 [+声門閉鎖]]

b. 感情形容詞語幹型

[Nominalization 対象名詞句 [+主格] 感情形容詞語幹]

①ガ格標示有

「NP 対象名詞句ガ 感情形容詞語幹 [+声門閉鎖]]

②ガ格標示無

[NP 対象名詞句 ø 感情形容詞語幹 [+声門閉鎖]]

(18a) では、属性形容詞語幹が単独で体言化形式として成立し、それが名詞句として用いられる。その際、「感動の対象」の提示は任意である(任意性を丸括弧で示してある)。(18b) では、感情形容詞の持つ格関係が反映している対象名詞句(「+

<sup>&</sup>lt;sup>19</sup>「感動の対象」は、いわゆる「対象語」(時枝 1941) のことを指して言っているのではない。

主格]で示す)と感情形容詞語幹が全体で体言形式として成立し、それが名詞句(① が格標示を伴う場合と②伴わない場合がある)として用いられる。この論文では、形容詞語幹型感動文を二種に大別しているが、属性形容詞語幹型も感情形容詞語幹型も体言化形式に支えられ、名詞句として感動の表出に用いられるという点で同じ感動文として機能すると捉える。

(18a) の統語構造については、Iwasaki(2014)を踏まえると、ここでの議論を一歩進めることもできるように思われる。Iwasaki(2014)は「あ!痛い!」「あ!この虫死んでる!」などを「internal expressive sentence」と呼び、広く考察しているが、このような文は伝統的な文法観では捉えられない別の文法によって成り立つとしている(「この虫」のようなものは「Stimulus」と呼ばれている)。属性形容詞語幹型においても Iwasaki(2014)と同様の主張ができる可能性があるが、「internal expressive sentence」と属性形容詞語幹型の関係および「Stimulus」と「感動の対象」の関係を同列に扱うことができるかどうかは未解決の問題であるため、今後詳細に検討したい $^{20}$ 。

(18b①) の統語構造においては、この名詞句内でが格が標示されるメカニズムを示す必要があるが、この点は稿を改めて論じたい $^{21}$ 。ただし、感情形容詞の対象名詞句のが格に関しては、T(時制辞)とは別に扱うべきであると考えられる。(19) のような、形容詞語幹が述語として機能している例を挙げる(なお、(19) は清水(2011) において接尾辞「サ」が句を包摂する構造を持つと分析された例である)。

- (19) a. 3 グループの犯行は計 65 件,被害は損壊額を含め計約 530 万円に上っている。いずれも [飲食費や遊ぶ金が<u>欲し] さ</u>の犯行といい,全員が容疑を認めている。 (『毎日』 2002 年 8 月 3 日地方版,香川)
  - b. 樽ころさんは本当の酒好きが多い。炊き立てのあつあつの御飯にお酒をかけて、お茶(酒)漬けをする。こんなおいしいものはない、[それが<u>した]さ</u>の樽ころがしだが、これに噎(む)せたら大苦しみだそうだ。 (『朝日』1997年1月26日朝刊、日曜版)

(19a)の「飲食費や遊ぶ金が欲し」、(19b)の「それがした」における感情形容詞(「欲しい」「したい」)には、接尾辞「サ」が付加していることから、時制辞の存在しない環境でが格が標示されている例と見ることができる。このことから、感情形容詞は、時制辞によらず対象名詞句にが格を付与することができると考えられる<sup>22</sup>。

<sup>&</sup>lt;sup>20</sup> Iwasaki (2014) は、「internal expressive sentence」が原則として伝達意図を持たないことも指摘している。

<sup>&</sup>lt;sup>21</sup> 影山 (1993) は、統語構造で抽象的な素性の形で存在する構造格が音韻部門で具現化されるという立場で、「名詞句の中の構造格」という考え方を提案し、動名詞(verbal noun)の分析を行っている。

<sup>&</sup>lt;sup>22</sup> 言語獲得におけるガ格標示の観点からも、「ガ格付与には時制辞が必要である」という分析が不十分であることが示唆される。幼児のガ格標示に関して、團迫(2010)は、ガ格が現れない段階(Stage I)、対象(Theme)の意味役割を持つ名詞句に対してのみガ格が標示される

- (18) で提示した形式と統語構造によって、先行研究で指摘されてきた事実が客観的に説明できる。例えば、今野(2012)で説明された(4)の特徴のうち、(4b)のT(時制辞)の欠如と(4c)のC(補文化辞)の欠如に関連付けられる事実については、体言化形式に時制辞や補文化辞といった典型的な機能範疇が含まれないことから説明できる。(4a)の Neg(否定辞)の欠如に関連付けられる事実とその説明においては、(20)のような今野(2012: 8)で取り上げられている例が問題となるが、(18)によって別の観点から客観的に説明できる。(4a)に関して、今野(2012)は「\*寒くなっ。」「\*臭くなっ。」の非文法性から否定辞を欠くと分析する一方で、反例となり得る(20)のデータについて、以下のように処理している(文法性の提示は今野(2012)による)。
- (20) ok/\* かわいくなっ。
- (20) においては、容認する話者も存在するが、その場合は「かわいくない」における「ない」をその場しのぎ的(ad hoc)に「語彙化」させているとし、「つまんない」において「語彙化された要素」と分析される「ない」と同列に扱っている。このような今野(2012)の議論に対して、形容詞語幹型感動文の否定化が許されないのは、感動文の基本的な特徴によると考えられる。感動文は「対象現前性」を持ち(笹井 2005、2006)、従って眼前の事態にではなく、不在に感動するということはない。このような特徴によって、否定化が一般には許されないと言える。このことは、英語の典型的な「感嘆文」(感嘆詞「how」または「what」を用いるもの)が否定形になることができないという特徴を持つこと(今井・中島 1978: 203 など)からも裏付けられる。一方、(20)のような否定化は、肯定的な事態が存在する場面において成立すると考えられる。
- (21) a. (アイドルの「小田さくら」について) 去年のヘブンイベントではじめて見たときは「<u>かわいくなっ</u>」って思ったけど, 最近, 急にかわいくなってきたと思う 個人的には娘。(筆者注:アイドルグループの「モーニング娘。」) 11 期候補 (エッグ枠) の筆頭

(http://ameblo.jp/werdna0411/entry-11350963635.html)

b. <u>ピザポテト焼きそば</u>(筆者注:エースコックの「カルビーピザポテト 味焼そば」), おいしくなっっっっ!

(http://ameblo.jp/mamimumemoemoe/entry-11351992658.html)

(21a) においては、「かわいくなっ」についての「感動の対象」(「小田さくら」) はアイドルであり、この心内語としての発話以前に、肯定的な事態(「小田さくら

段階(Stage II),意味役割の種類に関係なくが格が標示される段階(Stage III)があるとしている(ただし,團迫(2010)そのものは,「時制辞と主格の獲得」という観点による研究である)。対象の意味役割を持つ名詞句のが格標示が先立って観察されるという事実は,が格標示のメカニズムが名詞句のとる意味役割によって異なるという可能性を示すものである。

がかわいいこと」)が把握されていたと考えられる。(21b) の「感動の対象」(「ピザポテト焼きそば」) も同様に、人気の「ピザポテト」が焼きそばで再現されたものであることから、肯定的な事態(「ピザポテト焼きそばがおいしいこと」)があらかじめ把握されていたと考えられる。よって、肯定的な事態が存在していることにより、否定化が成立すると捉えられる。

(21) のような例は限られた場面で否定化が可能であることを示しており、否定辞の欠如という観点から「ない」が「語彙化」されていると分析するような例外的なものではない。この論文の立場では、体言化において、形式上否定化が許されていることによると捉えられる。以上のことから、今野(2012)の提案する統語構造による説明に対して、(18) のような形式と統語構造の関係からの説明は、より妥当性が高いと考えられる。

ところで、属性形容詞語幹型と比較すると感情形容詞語幹型ははるかに使われにくい。この事実の背景にあると考えられるものについて二点指摘しておく。第一に、「感動の対象」として働く対象名詞句をとるという特徴である。属性形容詞語幹型において、「感動の対象」の提示自体に対他性が結び付く(3.2節)ということを踏まえると、感情形容詞語幹型には形式上、対他性が備わっていると言える。そのため、感情形容詞語幹型は、聞き手に意図して「感動の対象」を伝えるというような対他的な状況で使われ、そうでなければ使われないと考えられる。第二に、感動文の根本的な性質と相関しない、分析的に派生されるという構成である。(15)のようにガ格が現れるということは、感情形容詞語幹型が格標示を伴った統語構造から派生したものであることを示している <sup>23</sup>。感動文は、山田(1936)における「感動喚体句」によると、根本的に「一元性」を有するものである。感情形容詞語幹型は対象名詞句と形容詞語幹から分析的に構成されるという点で一元的とは言えず、基本的な形式ではないので使われにくいと考えられる。以上の二点は、感情形容詞語幹型が統語的性質を持つという観点からまとめられる <sup>24</sup>。

(i) 立ち話に興じる飼い主の足元で退屈そうな2匹に目がとまる。「<u>お前の母ちゃん</u> 話が長っ!」「君のママこそ昨日と同じ話してんじゃん」。

(『朝日』2012年1月6日朝刊, オピニオン2)

この用例においては、「話」を「感動の対象」として「長いこと」に感動しているのではなく「お前の母ちゃん」を「感動の対象」として「話が長いこと」に感動していること、「話が長い」の意味が「うっとうしい」「うざったい」のように解釈できることなどから、「話が長い」全体で一語の形容詞として用いられていると考えられる。従って、「話が長っ!」のガ格は語の一部と考えられ、感情形容詞語幹型における対象名詞句を標示するガ格とは別個に扱うことができる。

<sup>23</sup> 属性形容詞語幹型においてガ格が現れる実例もある。

<sup>24</sup> 感情形容詞語幹型に統語的性質が認められるということは、それを構成する感情形容詞の統語構造が反映しているためだと考えられる。感情形容詞の特性に関して、感情形容詞語幹型がが格を伴う対象名詞句とともに用いられることと平行的に考えると、が格を伴う対象名詞句をとるということに感情形容詞の本質があるように思われる。今後、対象名詞句に着目することで、感情形容詞の特性を明らかにすることにつなげたい。

#### 6. おわりに

この論文では、現代語における形容詞語幹型感動文について、主語的共起要素が構造上の「主語」ではなく、「感動の対象」の提示部と考えられることを述べ、さらに形容詞の性質の違いの観点から、属性形容詞語幹型と感情形容詞語幹型の二種に大別し、形式と統語構造の関係を示した。感情形容詞語幹型については、ガ格を伴う場合と伴わない場合があることを指摘したが、この現象は、原因・理由を表す「〜サニ」という形式において格助詞が現れる現象(いわゆる「サニ構文」)と関連付けることができるように思われる。影山(1993)は(22a)のようなサニ構文における「酒代がほしさ」は接尾辞「サ」が格助詞を伴った統語構造(「酒代が欲し」)に付いたものであり、これが「複合化」することで(22b)における「酒代欲しさ」という複合語が成立すると分析している。

- (22) a. 男は、酒代が欲しさに強盗をはたらいた。
  - b. 男は、酒代欲しさに強盗をはたらいた。

サニ構文については、青木(2010)において、構成することのできる用言が感情形容詞の「欲しい」「-たい」にほぼ限られ、格助詞を標示すること自体が非常にまれであることが指摘されている  $^{25}$ 。感情形容詞によるものに格標示が観察され、格標示されない形式が基本的であるという点は、感情形容詞語幹型とサニ構文に共通する。このことから、感情形容詞語幹型に( $^{22a}$   $\rightarrow$  b)のような語形成を仮定することも可能であるように思われる。格標示されない感情形容詞語幹型がある種の複合語であるならば、感情形容詞語幹型とサニ構文の両者を統一的に扱うことができる。ただし、接尾辞「サ」のような名詞化辞を明示的にとらないという相違点および複合語としての資格の問題もあるため、その詳細については今後の課題としたい。

### 参照文献

安達太郎 (2002)「現代日本語の感嘆文をめぐって」『広島女子大学国際文化学部紀要』10: 107-121.

青木博史(2010)『語形成から見た日本語文法史』東京:ひつじ書房.

團迫雅彦 (2010)「獲得初期段階における未指定の機能範疇―日本語の時制辞と主格の獲得から―」『九州大学言語学論集』 31: 147–157.

芳賀綏(1978)『現代日本語の文法―日本文法教室・新訂版―』東京:教育出版.

飯豊毅一 (1973)「形容詞・形容動詞の語幹・各活用形の用法」『品詞別日本文法講座 4 形容詞・ 形容動詞』東京:明治書院。

今井邦彦・中島平三 (1978) 『現代の英文法 第5巻 文 (II)』東京:研究社出版.

Iwasaki, Shoichi (2014) Grammar of the internal expressive sentences in Japanese: Observations and explorations. In: Kaori Kabata and Tsuyoshi Ono (eds.) *Usage-based approaches to Japanese grammar*, 55–83. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.

<sup>&</sup>lt;sup>25</sup> 清水 (2011) においては、新聞を主としたデータベースを用いた調査によって、サニ構文を構成するのは「-たい」にほぼ限られること、(22b) のような格助詞の現れない形式が基本的であることなどが示されている。

岩崎勝一・大野剛 (2007)「「即時文」・「非即時文」一言語学の方法論と既成概念―」 串田秀也・ 定延利之・伝康晴(編) 『時間の中の文と発話』 135-157、東京:ひつじ書房。

影山太郎(1993)『文法と語形成』東京:ひつじ書房.

川端善明 (1965)「喚体と述体の交渉―希望表現における述語の層について―」『国語学』 63: 34-49.

今野弘章 (2012)「イ落ち:形と意味のインターフェイスの観点から」『言語研究』141:5-31. 三上章 (1953)『現代語法序説:シンタクスの試み』東京:刀江書院(復刊 1972 東京:くろしお出版)。

三上章 (1959) 『構文の研究』博士論文,東洋大学. (東京:くろしお出版 2002).

森山卓郎(1996)「情動的感動詞考」『語文』65:51-62. 大阪大学.

永野賢(1951)「言語過程における形容詞の取り扱いについて」『国語学』6:54-64.

西尾寅弥(国立国語研究所)(1972)『形容詞の意味・用法の記述的研究』, 国立国語研究所報告 44. 東京: 秀英出版.

Nishiyama, Kunio (1999) Adjectives and the copulas in Japanese. *Journal of East Asian Linguistics* 8: 183–222.

尾上圭介(1986)「感嘆文と希求・命令文―喚体・述体概念の有効性―」『松村明教授古希記 念国語研究論集』555-582. 東京:明治書院.

尾上圭介(1998)「一語文の用法―"イマ・ココ"を離れない文の検討のために―」『東京大学国語研究室創設百周年記念国語研究論集』888-908. 東京:汲古書院.

大庭幸男(1998)『英語構文研究―素性とその照応を中心に―』東京:英宝社.

大庭幸男(2011)『英語構文を探求する』東京: 開拓社.

大鹿薫久 (1988) 「感動文の構造―句と文についての把握―」『國語國文学 ことばとことの は 第5集』96-101. 大阪:和泉書院.

大鹿薫久 (1989) 「感動文の構造 (承前) ―句と文についての把握―」『國語國文学 ことば とことのは 第6集』77-82. 大阪:和泉書院.

Progovac, Ljiliana (2006) The syntax of nonsententials: Small clauses and phrases at the root. In: Ljiljana Progovac, Kate Paesani, Eugenia Casielles, and Ellen Barton (eds.) *The syntax of nonsententials: Multi-disciplinary perspectives*, 33–71. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.

笹井香 (2005) 「現代語の感動喚体句の構造と形式」 『日本文藝研究』 57(2): 1-21. 関西学院大学. 笹井香 (2006) 「現代語の感動文の構造―「なんと」型感動文の構造をめぐって―」 『日本語の研究』 2(1): 16-31.

清水泰行(2011)「現代語におけるサニ構文と語形成」『日本文藝研究』62(2): 1-20. 関西学院大学. 清水泰行(2014)「現代語における感情用言の形式と意味」博士論文, 関西学院大学. (リポジトリ (http://kgur.kwansei.ac.jp/introduction/) にて全文公表予定)

Stowell, Tim (1983) Subjects across categories. The Linguistic Review 2: 285-312.

竹沢幸一(1998)「格の役割と構造」中右実(編)『格と語順と統語構造』1-102. 東京:研究社. 田中望(1981)「「コソア」をめぐる諸問題」『日本語の指示詞』1-50. 国立国語研究所.

立石浩一(2012)「「い落ち」表現を端緒とする言語学的諸問題」『論集』59(2): 159-168. 神戸 女学院大学.

寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味 第 I 巻』 東京: くろしお出版.

冨樫純一(2006)「形容詞語幹単独用法について─その制約と心的手続き─」『日本語学会 2006 年度春季大会予稿集』165-172.

時枝誠記(1941)『国語学原論』東京:岩波書店.

山田孝雄(1936)『日本文法学概論』東京:寶文館.

#### 用例出典

テレビ番組・CM などのテレビからの例については本文中で典拠を示す。ブログなどのインターネット上の例については本文中に URL を示しているが、画像・絵文字を省略するなどし、読みやすく整えた部分がある。

『朝日』:朝日新聞社『聞蔵 II ビジュアル』, 『ハカセ』: 実験太朗・立花美月『研究者マンガ ハカセといふ生物 (いきもの)』技術評論者, 『毎日』:毎日新聞社『毎索』, 『テルマエ』:ヤマザキマリ『テルマエ・ロマエ III』エンターブレイン

執筆者連絡先:

〒 662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155 関西学院大学大学院文学研究科

email: yasushimi@gmail.com

[受領日 2014 年 7 月 30 日 最終原稿受理日 2015 年 8 月 5 日]

#### Abstract

# Adjective Stem-Type Sentences in Modern Japanese: The Distinction between Phrasal Nominal Structures and Small Clause Structures

## Yasuyuki Shimizu

Researcher, Graduate School of Humanities, Kwansei Gakuin University

This paper discusses Japanese adjective stem—type sentences: a type of exclamatory sentence formed by an adjective stem and ending in glottal stop pronunciation, such as *atsu2*! "hot!" Focusing on whether such examples take a structural subject as their "theme of exclamation," it concludes that they do not, based on responsiveness and interpersonality. Noun phrases such as *kore* in *kore*, *uma?*! "this, delicious!" were found to constitute a presentation unit for the speaker to attract the listener's attention. It is found that based on whether adjectives are attributive or emotional, adjective stem—type sentences can be divided similarly, as attributive and emotional. However, it was found that both these types function as exclamatory sentences in the same way: they have a nominalization form and are used to express feelings as a noun phrase.